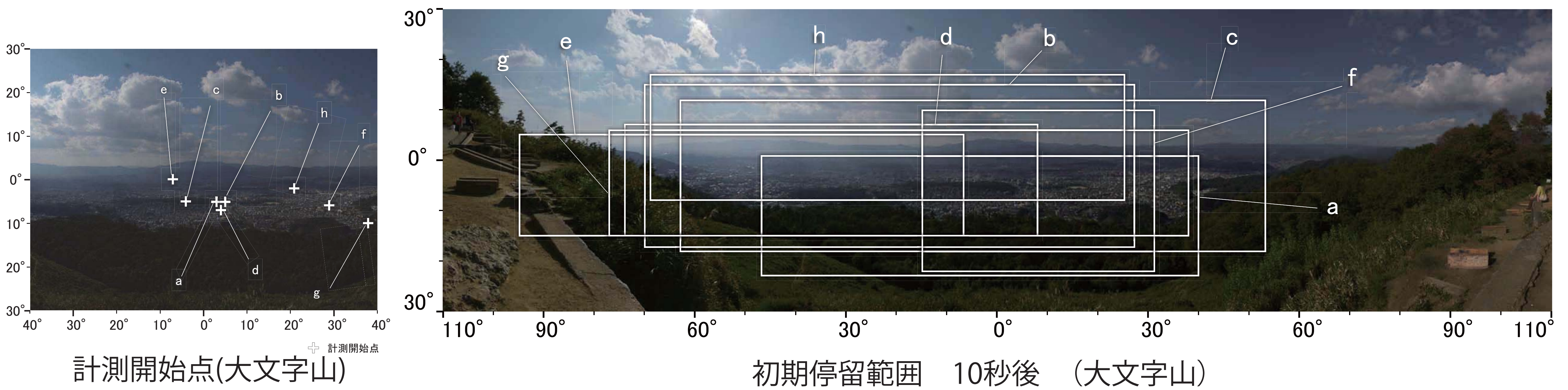
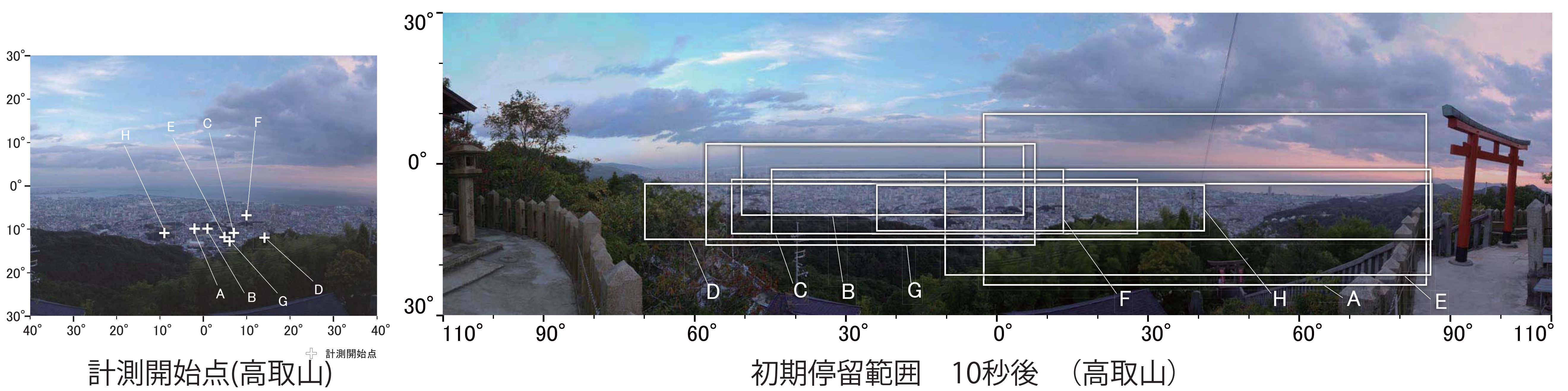
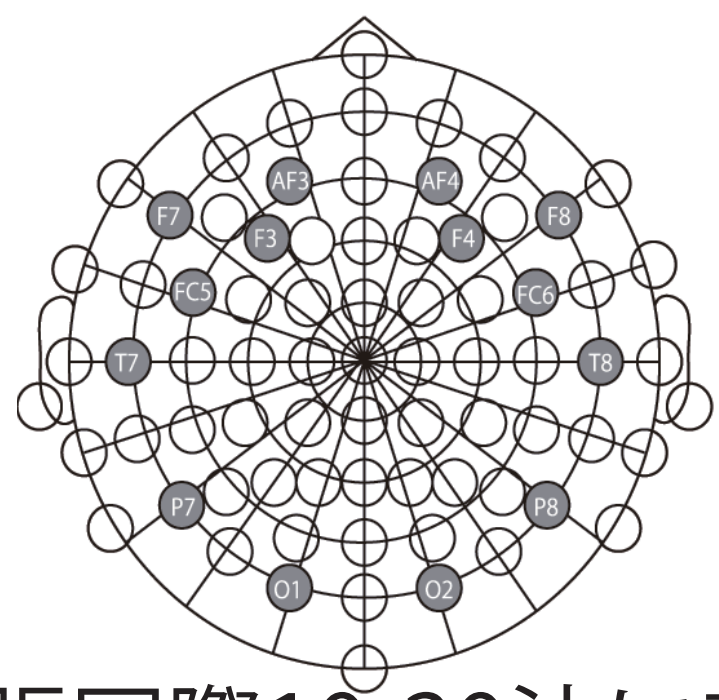


# 日本の伝統的造形手法に着目した シーケンス景観

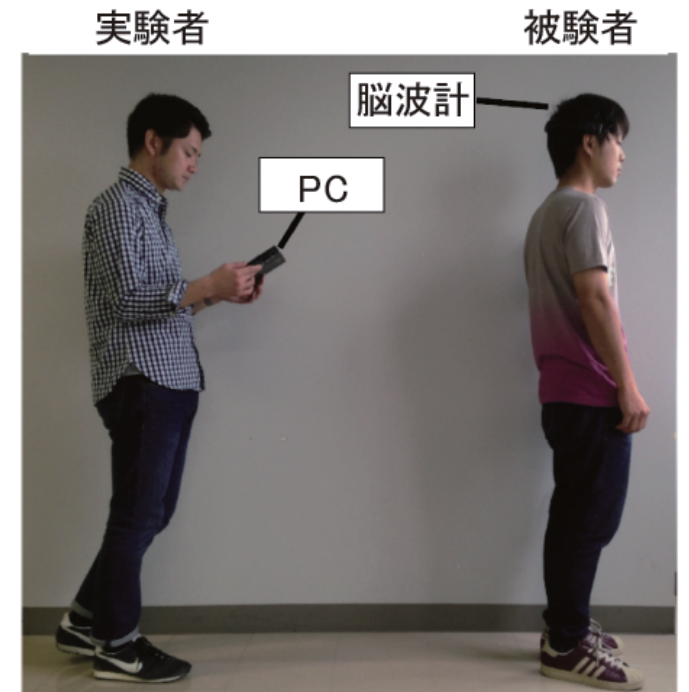
わが国の伝統的な空間形成やものづくりにおいては、これまであまりシステマティックに捉えられることが少なく、それらのデザイン手法が論理的に明らかにされてきませんでした。今日、グローバル社会が急進していく一方で、改めて日本独自の造形理念やデザイン手法が見直され、エコをベースとした環境共生時代にそれらの価値がますます高まりつつあります。そういった観点から、伝統的住まいをはじめ、昔ながらの商店街、庭園・アプローチ空間などの外部空間、さらには日本の景色・風景なども含めて、それらの底辺に通奏する日本の美意識ならびにデザイン手法を、人間の視覚行動を計測したデータや、脳波計によるデータをもとに研究しています。



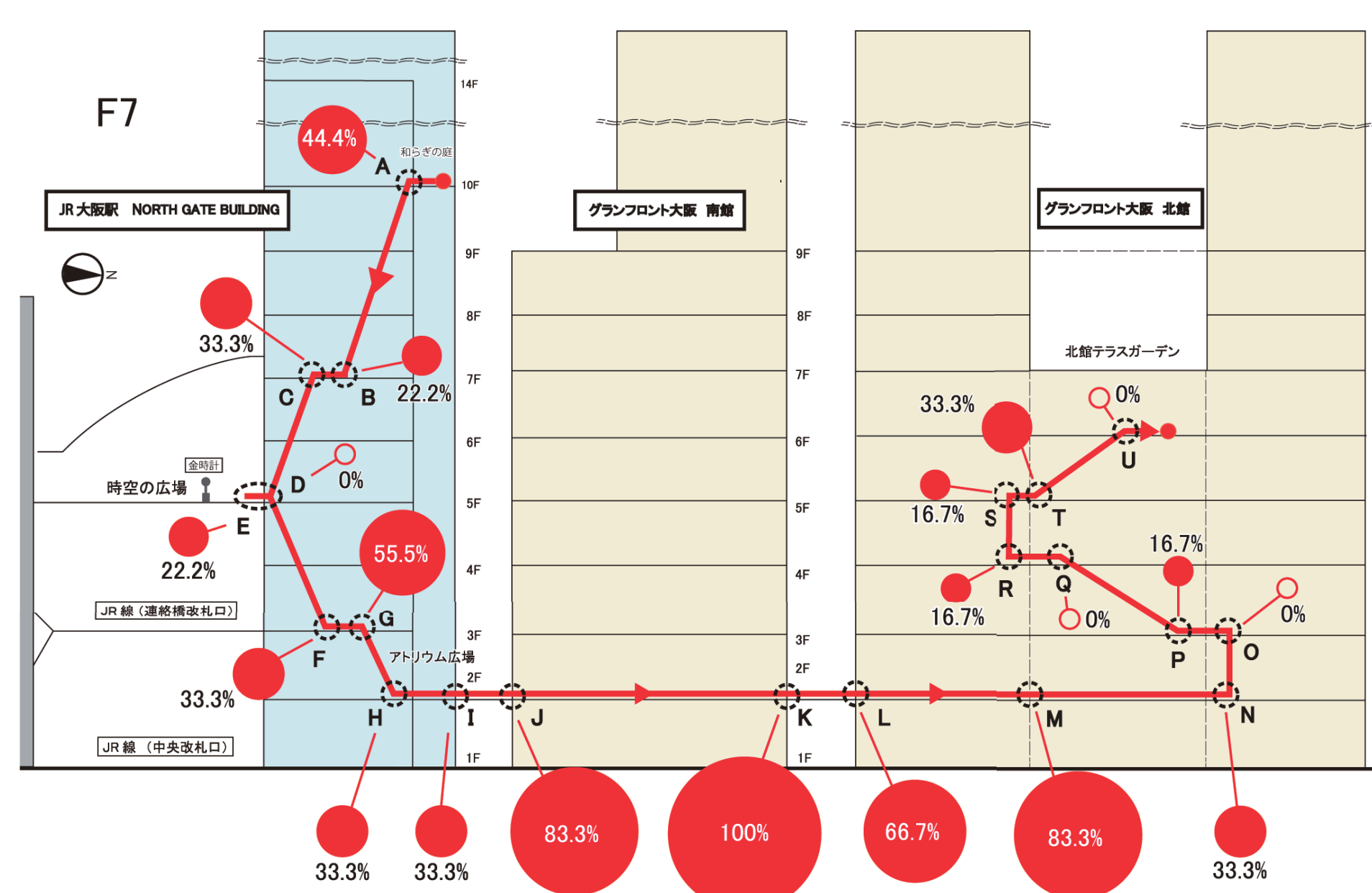
都市部における眺望景観把握行動に関する研究 (アイマークレコーダーによる視線計測データを用いた景観研究)



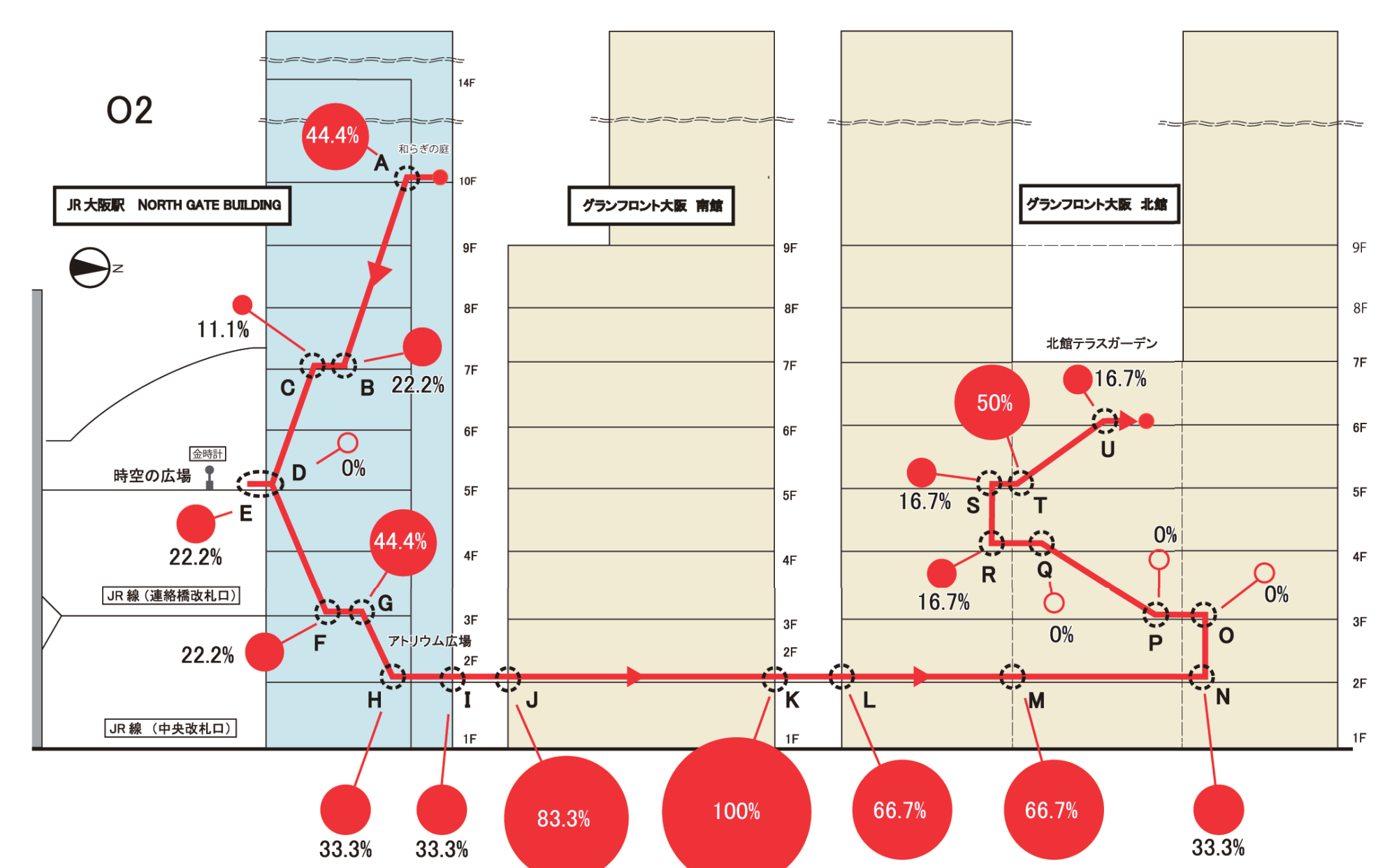
拡張国際10-20法に基づく  
14点の電極位置



実験の様子(脳波計装着)



各分節点付近での高次β波抽出割合  
(電極位置F7)



各分節点付近での高次β波抽出割合  
(電極位置O2)

景観把握にともなう脳波統制の抽出 (脳波計による脳波データを用いた空間認知に関する研究)

注1) 視覚行動: 文献1によって示された、人間が空間の中で視覚的な情報を得て、とる行為。

文献1: 宮岸幸正・材野博司: 景観のシーケンスに関する基礎的研究-景観視覚行動と空間の間閉度を中心として-日本都市計画学会学術研究論文集, pp433~438, 1991.11